



感染対策 NEWS LETTER



『遅咲きの手足口病にご用心!!』

手足口病とは、口の中や手足などに水疱性の発疹がでる、ウイルスの感染によって起こる感染症です。子どもを中心に、主に夏に流行しますが、2021年は9月頃から感染者が増え、12月になっても流行は続きそうです。この感染症は5歳以下の乳幼児に多く、保育（幼稚）園で流行しますが、大人の手を介した感染や、子どもから大人への感染例もあるため注意が必要です。

原因となるウイルス

コクサッキーウイルス A6（CA16）、エンテロウイルス 71（EV71）など、基本的に予後は良好な、いわゆる夏風邪のウイルスです。



感染経路

くしゃみなどによる「飛沫感染」・ウイルスの付着した手で口を触れるなどして起こる「接触感染」・便などの排泄物の中に含まれるウイルスが口に入ることによって起こる「糞口感染」があります。

特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児は、子ども達同士の生活距離が近く、濃厚な接触が生じやすいことから感染も容易です。また、原因となるウイルスに感染した経験のないため、感染した子どもの多くが発病します。

症状

感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの水疱性発疹が出現します。発熱はあまり高くないことがほとんどで、数日間のうちに治る病気です。

大人の場合は、感染後症状のない不顕性感染（免疫があり発病しない状況）が多く、発病する確率は低い。



小児科医から一言 (西村医師)

今年は、手足の発疹が遅れて出現するタイプのようです。手足の症状がないからといって、安心しないようにして下さい。



大人の手足口病は、子どもより重症化しやすい傾向にある

- 発疹のかゆみと痛みが強い
- 40℃近い高熱の出現
- 関節痛や全身の筋肉痛
- 嘔吐や下痢、手足のしびれ など

親御さん、保育施設ではたらく方へ

手足口病は子どもたちに流行する感染症です。子どもから子どもの感染を完全に防止することはできません。しかし、大人を介して子どもたちが感染することがないように予防対策を実践する必要があります。手足口病のウイルスは、回復後も2～4週間にわたって糞便から排泄されます。交換したおむつは、他の子どもたちが触れないように管理し、おむつに触れた方はしっかりと手を洗いましょう。食器やタオルなどの共用は避け、体調が悪い時（発熱、症状に合わせて）は十分に休養をとりましょう。

手足口病のウイルスはアルコールが効きにくいウイルスです。石鹸手洗いを基本にしましょう。

